

なぜ赤ちゃんに絵本を読むの？

絵本は、赤ちゃんとふれあうための道具です。絵本を読んでもらっている時の心地よい声、心地よいリズム、心地よい動きなどを通して、赤ちゃんは安心して甘えられる人とのきずなを結ぶことができます。そして、自分だけの時間、愛されているぬくもりを感じることで、人に対する信頼感を育てることにもなります。

決まった方法やルールがあるの？

赤ちゃんに愛情をもって読んであげることが大切なので、やさしい声でゆっくり読んであげれば、特に決まった方法やルールはありません。

具体的にはどうすればいいの？

抱っこしたり、膝に乗せたり、添い寝をしながらなど、毎日の暮らしの中で自由に読んであげてください。

いつ読んであげればいいのか？

赤ちゃんのきげんが良ければ、いつでもかまいません。読まなくてはならないからという気持ちで読むものではなく、赤ちゃんと一緒に時間を楽しもうという気持ちで読んであげることが大切です。



どれだけ読んであげればいいのか？

赤ちゃんがもっと読んでほしそうだった、出来るだけ読んであげてください。また、同じ絵本ばかりではなく、ときどき違う絵本を読んであげてください。成長していくにつれて、赤ちゃんは絵本の中に自分の知っているものを見つけたり、ものの名前を知ったりという楽しみが出てきます。

赤ちゃんが途中で嫌がったらどうしたらいいの？

きげんの悪い時や、途中で嫌がった時は、無理に読まないでください。ただ読めばいいとか読まなくてはならないのではなく、赤ちゃんと一緒に絵本を楽しむことが大切なのです。

どんな絵本がいいの？

赤ちゃんにも、絵本によって好き嫌いがあります。中区では、BCG予防接種時に開催している「中区豊かなころづくり応援事業」のブックスタートパックとして『いっしょにたのしもう～0歳からの絵本～』という小冊子を絵本と一緒に配布していますので、それを参考にして、赤ちゃんのお気に入りを探してあげてください。

また、図書館でご相談いただくこともできます。



中図書館では「えほんのじかん」、「赤ちゃんえほんのじかん」で、また、中保健センターでは3歳児健康診査時に絵本の読み聞かせをしています。

赤ちゃんの成長に合わせて、ゆっくりと絵本の世界を楽しんでください。